

自治体の課題、現状

本市においては、8校の公立中・義務教育学校があり、生徒3,750人で129部活が活動している。近年では、中体連の大会に合同チームで参加する部活動や、次年度より、新入部員を募集しない部活動も生じているため、スポーツ、文化芸術活動の環境整備が急務である。

今年度は、実証事業として、バレーボール教室を美乃浜学園体育館で行ったが、送迎が保護者への負担となっている。今後は、少年団等を始めとする受け入れ団体の整備や生活困窮家庭への支援等、様々な課題をひたちなか市学校部活動地域連携・地域移行推進協議会で共有しながら進めていく必要がある。

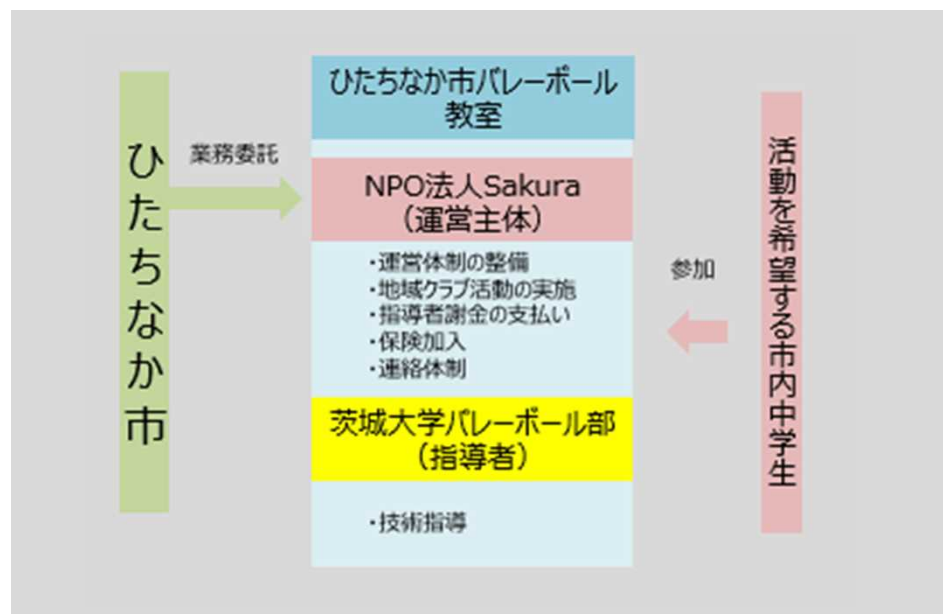
地域スポーツクラブ活動等の概要

中学校数	8校	全生徒数	3,750人
域内の部活動数	129部	実施した地域クラブ数	1クラブ
全体の指導者数	23人	全体の運営スタッフ数	1人
主な運営団体	特定非営利活動法人Sakura		
主な種目	バレーボール		
平均的な活動回数	2回/月	年間平均参加生徒実数	2年：53人/クラブ 1年：62人/クラブ
参加会費	500円/月	主な活動場所	美乃浜学園体育館

地域移行関連の取組、成果

- 取組としては、地域クラブとして大会に参加することを目的としない、生徒がスポーツに継続して親しむことができる機会を確保することを目指す。
- 体制としては、運営をNPO法人Sakuraに業務委託、指導者を茨城大学バレーボール部から派遣して本教室を行った。また、会場を美乃浜学園体育館を活用した。
- 参加生徒を対象としたアンケートでは、約91%が教室への参加に肯定的な回答を示し、約82%が技能向上を実感したと回答した。これらの結果から、本事業が参加生徒にとって有意義な活動であったと考えられる。

運営体制図



令和6年度

地域スポーツクラブ活動体制整備事業

地域スポーツクラブ活動への移行に向けた実証事業

茨城県 ひたちなか市

自治体名 : 茨城県ひたちなか市
担当課名 : 教育委員会事務局指導課
電話番号 : 029-273-0111

本報告書は、スポーツ庁の「令和6年度地域スポーツクラブ活動体制整備事業（運動部活動の地域移行等に向けた実証事業）」の一貫として、茨城県が実施した「令和6年度運動部活動の地域移行に向けた実証事業」の成果をとりとめたものです。

1.自治体の基本情報

基本情報

面積	100.26km ²
人口	152,982 人 (令和7年1月1日)
公立中学校数	8 校
公立中学校生徒数	3,750人
部活動数	129 部活
市区町村の協議会・検討会議等の設置状況	設置済
市区町村の推進計画・ガイドライン等の策定状況	策定に向けて準備中

地域連携・地域移行における市区町村の現状・課題

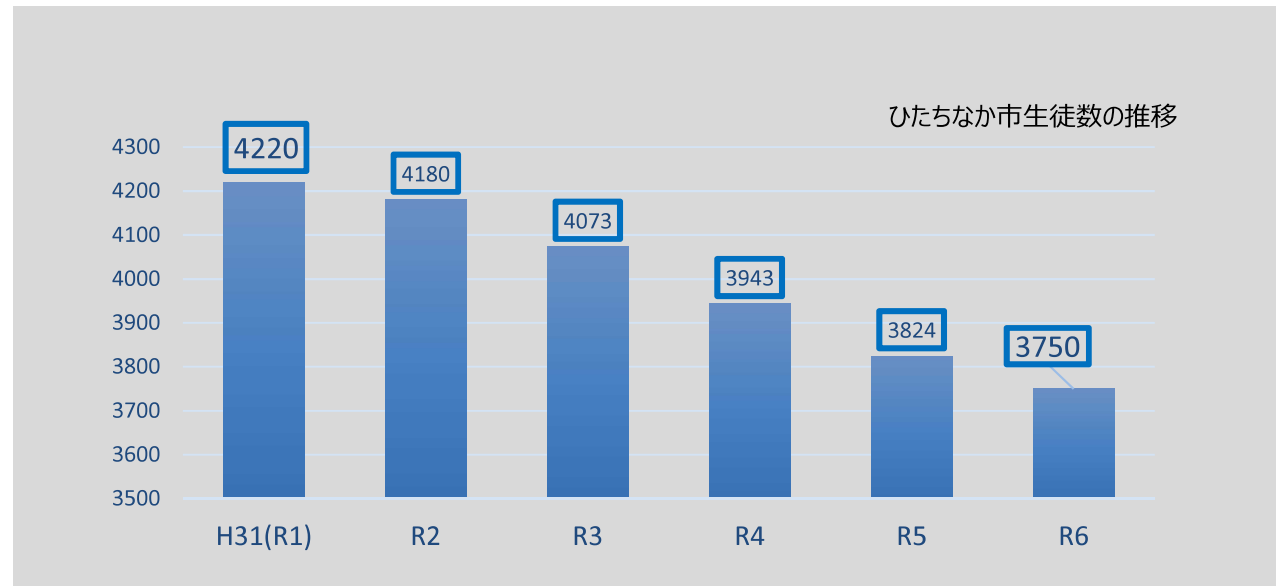
現在、当市の運動部活動は、軟式野球部、サッカー部、陸上競技部、男子バスケットボール部、女子バスケットボール部、男子バレーボール部、女子バレーボール部、男子ソフトテニス部、女子ソフトテニス部、男子卓球部、女子卓球部、柔道部、剣道部、水泳部、体操部の15の部が活動している。

令和4年度から市教育委員会が主体となって、部活動の地域移行に取り組んでいる。その中で、運営団体・実施主体の明確化、持続可能な運

営資金（予算）の検討、活動場所の確保、指導者と学校との連絡体制の整備が課題と考えている。

中学校等の生徒数もゆるやかな減少傾向にあり、令和6年度の3,750人に対し、令和12年度では3,668人に減少する見込みである。

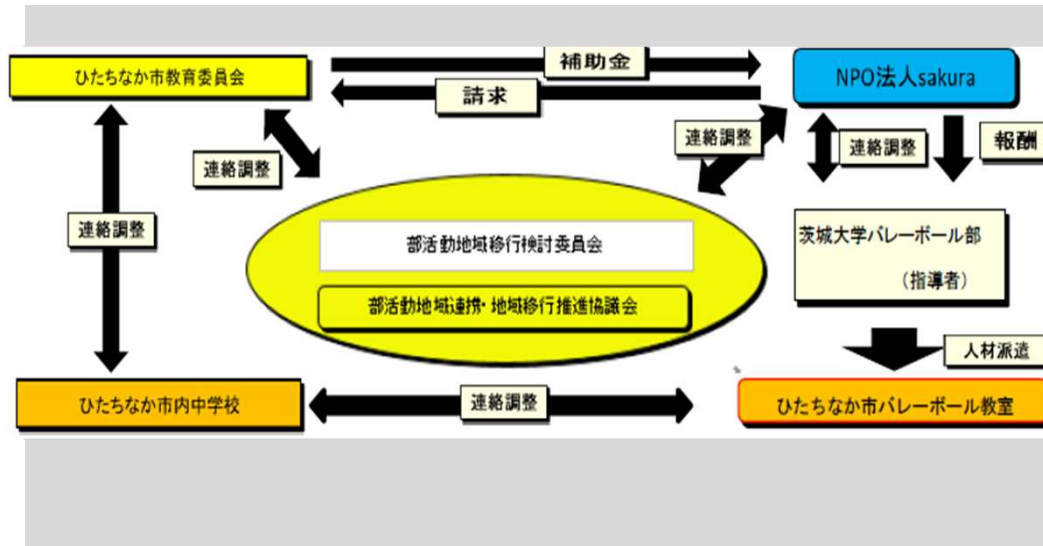
運動部の団体競技では、部員不足のため単独でチームを編成することができず、合同チームで大会に出場するケースも増えてきている。



2.実証内容と成果

運営体制・役割

●運営体制図（市区町村における推進体制図）



●行政組織内での役割分担

◎教育委員会

- ・指導課…活動実施形態の検討、事業者への委託、兼職兼業の調整、保護者への周知

◎首長部局

- ・検討委員会及び協議会への参加、助言

年間の事業スケジュール

令和6年8月	ひたちなか市バレーボール教室 体験及び保護者説明会
令和6年9月	ひたちなか市バレーボール教室 体験及び保護者説明会
令和6年10月	ひたちなか市バレーボール教室 開始
令和7年1月	第1回協議会開催
令和7年2月	参加者へのアンケート実施

2.実証内容と成果

地域スポーツクラブ活動の運営実績

①全体に関すること

中学校数	8 校	実施した地域クラブ総数	1 クラブ
ケース別クラブ数	A：部活動を地域移行した形のクラブ数（及び移行された部活動数）		0 クラブ（0 部活）
	B：部活動を移行する形態ではない地域クラブ（新たな種目のクラブを新規に創設するケース等）		1 クラブ
全体の指導者数	2 3 人	全体の運営スタッフ数	1 人

②各クラブに関すること

クラブ名	運営団体種別	種目 ※新規のものは末尾に（新）を付ける	実施回数	実施時間帯	参加者 （学年別）	実施期間	活動場所	指導者数	運営スタッフ数 （他クラブと兼務）	会費	大会参加方法
ひたちなか市バレーボール教室	NPO法人	バレーボール（新）	月2回	9:00～12:00	1 年63名 2 年52名	令和 6 年 1 0 月～	ひたちなか市立美乃浜学園体育館	2 3 人	2 人 （内、兼務 1 人）	月会費 500 円／	中体連：部活動

③その他、体験会やイベント等の開催実績

- 令和 6 年 8 月 体験及び保護者説明会実施（計 1 回）
- 令和 6 年 9 月 体験及び保護者説明会実施（計 2 回）

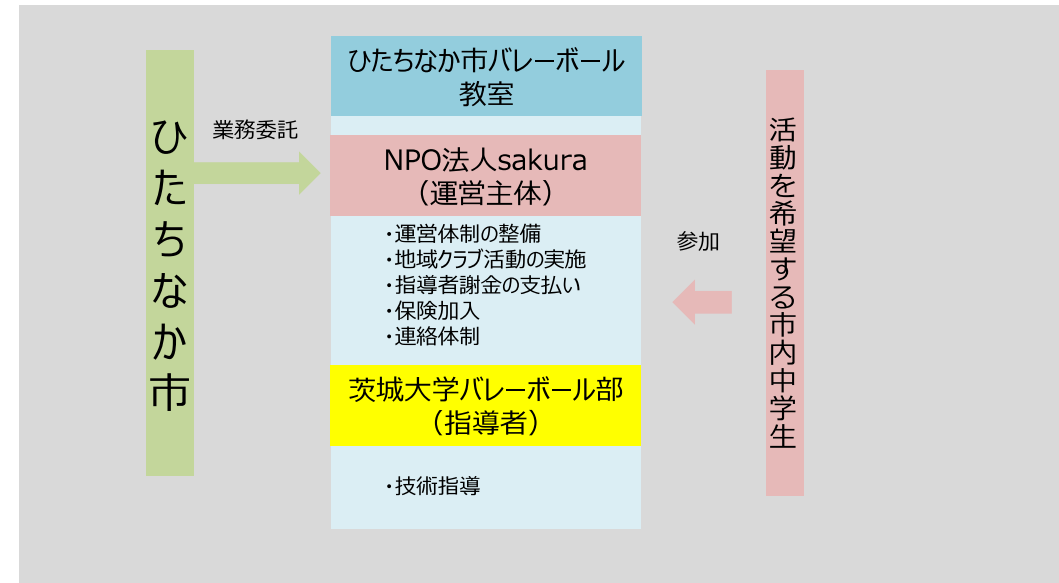
2.実証内容と成果

主な取組例

●ひたちなか市バレーボール教室 活動概要

地域クラブ活動で実施した種目	バレーボール
運営団体名	ひたちなか市バレーボール教室
期間と日数	10月20日～3月31日 月2回程度
指導者の主な属性	大学生
活動場所	ひたちなか私立美乃浜学園体育館
主な移動手段	保護者送迎
1人あたりの参加会費等（月額）	500円
1人あたりの保険料	スポーツ安全保険 生徒1人あたり：800円/年 指導者1人あたり：1,850円/年

●運営体制図（地域クラブ活動を実施する際の運営体制図）



●指導者や運営スタッフなどの役割分担等

●統括責任者

役割：活動における管理者として、指導者、保護者との連携を行う

●コーディネーター

役割：活動における主任者として、指導者への指示及び調整、生徒への技術指導を行う

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組

取組内容

●取組項目名 ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

取組事項

○教育委員会がNPO法人 sakuraと契約し、運営団体として事務局となり、指導者の派遣を担い、持続可能な体制を検討していく。

○参加者管理、会費徴収、参加者・指導者への連絡、会場の調整、会計業務等を行う。

取組の成果

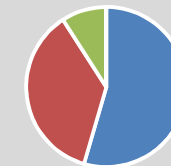
参加した中学生115人を対象としたアンケートの結果、回答者の約91%から、バレーボール教室に参加して、肯定的な内容の回答を得られた。

また、「技能が向上したか」については、約82%の肯定的な回答が得られた。

教室に参加して、主な良かった点としては、「練習方法や内容」、「コーチの教え方」などの回答が得られた。

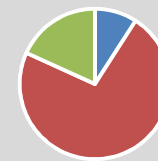
他にも、「部活動顧問とは違った角度で教えてくれ、参考になった」「やりたいポジションの技術を高めることができたので、高校でも続けていくための参考になった」との感想が寄せられた。

バレーボール教室に参加してどうでしたか



■ よかった
■ まあまあよかった
■ あまりよくなかった

技能は向上しましたか



■ 向上した
■ まあまあ向上した
■ あまり向上していない
■ 向上していない

今後の課題と対応方針

- 運営スタッフの人員が不足しており、会費徴収等の業務に支障をきたしている。運営スタッフを増やす場合、会費の徴収額が増える可能性がある。
- 参加生徒が増えたため、ボール等の必要物品が不足している。今後は参加者が持参するか、消耗品として別途会費を徴収する等の検討が必要である。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
 イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
 エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
 カ：参加費用負担の支援等
 キ：学校施設の活用等
 ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 ウ：関係団体・分野との連携強化

取組事項

- 指導者の派遣について茨城大学バレーボール部と連携。
- 参加者からの費用徴収、指導者への謝金支払い等の運営母体として、NPO法人sakuraと業務委託契約を結び、本事業を実施した。
- 実施回数は全12回。参加生徒総数は115人

取組の成果

- バレーボール教室を10月から開始するにあたって、生徒対象に体験教室、保護者対象に説明会を実施した（8月1回、9月2回）。保護者への説明会では、部活動地域移行に関する概要と、バレーボール教室に関する説明を行い、本事業と部活動地域移行の周知を図った。
 体験教室及び説明会開催時は、市教育委員会担当が保護者への説明、指導者は参加生徒への指導を行うなど、分担して運営を行った。
- 指導者、運営母体、市教育委員会担当の三者で、本教室を開始するにあたり、打ち合わせを行うことで、スムーズな運営ができるよう、努めた。



実施状況

・回数	12回（1月2回実施）
・開催時期	令和6年10月～ 令和7年3月
・参加者数	115人 （中1:63人、中2:52人）
・指導者数	23人

主な経費・受益者負担額等

・指導者謝金単価	1,600円/1h
・保険料	生徒 800円（115人） 指導者 1,200円（2人） 1,850円（21人）
・受益者負担額	3,000円 （500円×6ヶ月分）

今後の課題と対応方針

○今後は、地域のさまざまな指導者や団体に参画してもらう必要があるが、運営母体が不足しているため、持続可能な体制づくりについて検討していく。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 キ：学校施設の活用等

取組事項

夜間は地域の方に学校体育施設を開放している。地域クラブ活動となった場合、原則として休日の日中に学校体育施設を利用できるように調整を図る。

取組の成果

学校と連絡を密に行って計画を立てたため、全12回の活動において、100%、学校体育施設を利用しての活動を行うことができた。

今後の課題と対応方針

○今後、部活動の地域移行に伴い、中学生を受け入れる地域クラブ活動の拠点となる学校体育施設を利用しやすい環境を整えるため、市の公認制度等、整備の検討が必要。

○参加生徒が増えると、1校の体育館だけでは不足となる。今後は参加人数に合わせて、男女別会場で実施するなど対策が必要となる。

総括・成果の評価・今後に向けて

●総括

本年度の実証事業では、中学校におけるバレーボール部活動の地域モデル構築を目指し、茨城大学バレーボール部との連携による指導者派遣と、NPO法人sakuraへの運営委託によるバレーボール教室を実施した。全12回の教室では、115人の中学生が参加し、地域におけるスポーツ活動の新たな形を模索した。

事業開始に先立ち、体験教室と保護者説明会を複数回開催し、地域移行の趣旨や教室内容について丁寧な説明を行った。これにより、参加者と保護者の理解を深め、スムーズな事業開始に繋がった。

運営面においては、教育委員会、NPO法人sakura、指導者の三者による定期的な打ち合わせを実施し、情報共有と課題解決に努めた。特に、参加者の安全確保や円滑な教室運営に重点を置き、各関係機関との連携を密にすることで、事業が遂行できた。

本事業は、地域におけるスポーツ活動の可能性を示すとともに、今後の地域移行に向けた貴重な知見を得る機会となった。

●成果の評価

参加生徒を対象としたアンケートでは、約91%が教室への参加に肯定的な回答を示し、約82%が技能向上を実感したと回答した。これらの結果から、本事業が参加生徒にとって有意義な活動であったと考えられる。

具体的な成果として、「練習方法や内容」、「コーチの教え方」が高く評価された。特に、部活動顧問とは異なる専門的な指導を受けたことで、新たな視点や技術を習得できたという声が多く聞かれた。また、「やりたいポジションの技術を高めることができたので、高校でも続けていくための参考になった」という感想もあり、生徒の今後の活動についても貢献できたのでは、と考えられる。

保護者説明会では、地域移行に関する概要とバレーボール教室に関する説明を行い、保護者の理解を得ることができた。体験教室と説明会を複数回開催したことで、より多くの生徒と保護者に参加してもらうことができ、地域移行に関する周知を効果的に行うことができた。

●今後に向けて

今後は、持続可能な体制構築に向けて、以下の点に取り組む必要がある。

まず、運営母体の確保と強化である。地域の様々な指導者や団体と連携し、運営スタッフの確保・育成に努める必要がある。特に、会計業務や参加者管理などを担う人材の確保が急務となる。

次に、財源の確保である。運営スタッフの人件費や必要物品の購入費などを賄うため、会費の見直しや新たな財源の確保を検討が必要となる。また、参加者数の増加に対応するため、ボールなどの消耗品を含めた必要物品の確保も課題である。

さらに、広報活動の強化も重要である。地域住民への周知を徹底し、より多くの参加者を募ることで、地域全体のスポーツ振興に繋げていく必要がある。

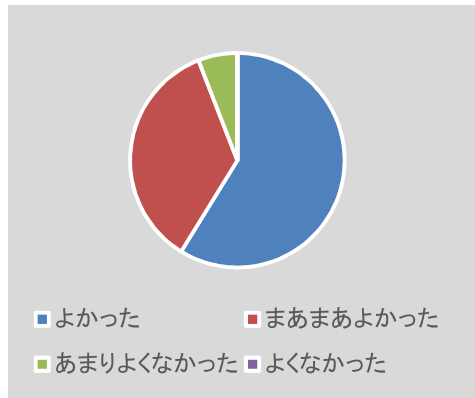
これらの課題を解決し、地域移行を成功させるためには、地域住民、学校、行政が一体となった取り組みが不可欠である。今後も関係機関との連携を密にし、地域の実情に合った持続可能な体制構築を目指していく。

2.実証内容と成果②

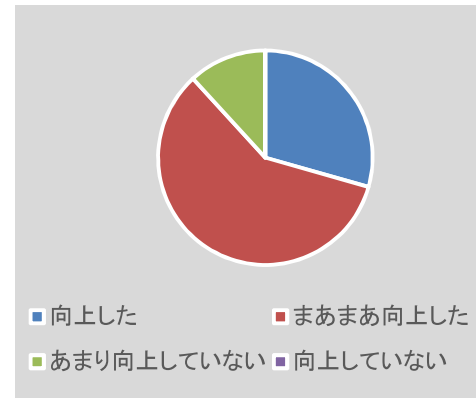
アンケート結果・参加者の声

●参加生徒へのアンケート結果

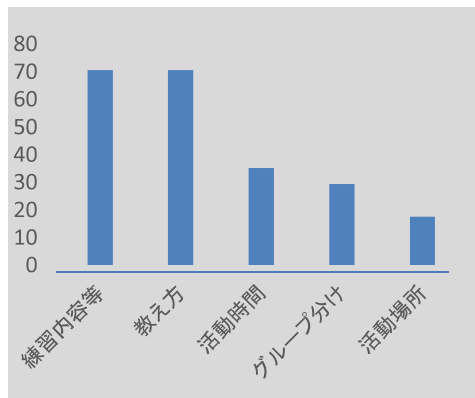
Q.バレーボール教室に参加して、
どうでしたか



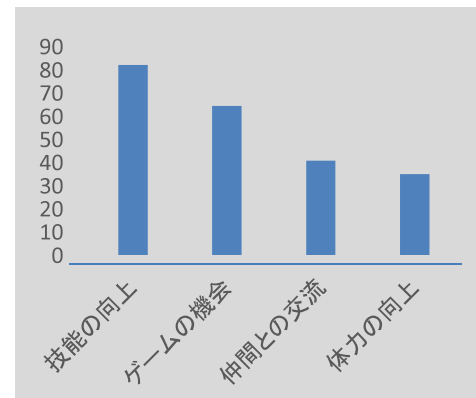
Q.バレーボール教室に参加して、技能
は向上しましたか



Q.バレーボール教室に参加して、良かった点を教えてください(複数選択可)



Q.今後、バレーボール教室に期待することはどんなことですか(複数選択可)



●参加者の声

中学 1 年生

練習環境も良く、大学生とも仲良くなれて、楽しく練習することができ、学校での練習とは違った雰囲気を感じることができ、楽しく活動ができました。

中学 1 年生

他の学校の生徒と一緒にチームを組んでゲームをすることで交流ができたので、親睦を深めることができたことが新鮮でした。

中学 2 年生

指導者から技術指導やコツを教えてもらうことで、技能向上に役立ち、自分のプレーを見直すいい機会となりました。顧問の先生とは違った視点で、新たな発見ができました。

指導者

今回のバレーボール教室では、中学生の皆さんにバレーボールの楽しさを改めて感じてもらうとともに、技術向上を目指した指導を行いました。様々な感想から、楽しくできたといった感想が多く聞かれ、このような環境を提供できたことを嬉しく思います。

2.実証内容と成果③

広報資料

令和6年度 ひたちなか市バレーボール教室開催要項

- 1 趣 旨：市内中学生を対象にバレーボール教室を開催することで、将来にわたって、生徒がスポーツに継続して親しむことができる機会を確保する。
- 2 主 催：ひたちなか市教育委員会
- 3 主 管：NPO 法人 sakura
- 4 開 催 日：令和6年10月から月に2回（原則第2・第4日曜日）
※会場等の都合により、変更の場合はお知らせいたします。
- 5 時 間：9：00～12：00
- 6 会 場：ひたちなか市立美乃浜学園体育館
- 7 指 導 者：茨城大学バレーボール部
- 8 活動内容：バレーボール技術指導等
- 9 参加費：500円（1人/月）振込
10月からの参加…3,000円
11月からの参加…2,500円
※バレーボール教室を欠席した場合の返金はいたしません。
※参加費は一括払いのみといたします。
- 10 振込方法：申込み後、振込先をメールにてお知らせいたします。
- 11 申 込：下記二次元コードより申込。
10月からの参加…申込み期間 令和6年9月21日～9月30日17:00
11月からの参加…申込み期間 令和6年10月21日～10月31日17:00
- 12 持 ち 物：運動のできる服装、体育館シューズ、飲み物
- 13 保 険：スポーツ安全保険に加入します。
※保険料につきまして、今年度は市が負担いたします。
次年度以降は参加者の負担といたしますので、ご了承ください。
- 14 移動方法：保護者送迎（開始前と終了後）、公共交通機関、自転車
- 15 申 込 後：①申込された方にメールにて、下記についての各種文書を
NPO 法人 sakura より配付いたします。
・参加費納入の仕方について
・出欠連絡について
・緊急連絡先等の確認について
②今後の実施予定日についてはNPO 法人 sakura のHPでお知らせします。
(URL) <https://nposakura24.my.canva.site/>

<申込み先>下記の二次元コードよりお申し込みください。

【バレーボール教室開催要項】

ひたちなか市公式HPに「学校部活動の地域移行」に関するページを開設。
youtube動画もアップした。(URL) <https://youtu.be/XDIzvO6j-EA>

30th Anniversary
ひらがながまち。ひたちなか

「休日」の学校部活動の 地域クラブへの移行に向けて

部活動の地域移行とは、学校が主体の学校部活動を地域が主体となる地域クラブ活動に移行する取組です。少子化が進む中、生徒が継続して、多様なスポーツや文化芸術活動に親しむ機会を確保することを目的としています。

どうして部活動の地域移行をするの？

→全国で少子化が進んでいるため

- ・1部活動あたりの部員数が減少
- ・1中学校あたりの部活動設置数が減少

○子供たちのスポーツ・文化芸術活動の機会を守る

- ・地域で多様なスポーツ・文化芸術活動ができる機会を確保

○地域の子供を地域で育てていく

- ・地域の多様な世代と豊かな交流
- ・学校を超えた仲間づくり

学校部活動から地域クラブ活動へ

地域クラブ活動は、地域の多様な団体が運営・実施する活動です。学校施設のほか、市民体育館やコミセンなど、様々な場所で実施します。地域のこどもニーズに合わせた様々な選択肢をつくることができます。

学校部活動 例：○○中学校での部活動

地域クラブ活動 例：○○市町村での地域クラブ活動

休日の活動を地域クラブへ！

(スポーツ庁広報資料参考に作成)

どのように進めていくの？

学校や地域の状況を踏まえて、段階的に進めていきます。
準備ができた種目から順次スタートしていきます。
(市公式HPなどで随時お知らせします)

「地域移行」のメリットは？

POINT 1
自分のやりたい活動ができます！
複数の活動を兼ねることもできます！

POINT 2
ニーズに応じた技術指導を受けられます！

POINT 3
地域の様々な年代の人や、他の中学校の生徒とも関わるができます！

ひたちなか市の地域移行の現状はどうなっているの？

○ソフトテニスや柔道など、地域クラブで活動している生徒が、総体や新人戦等の中体連の大会にも出場しています。

○令和6年10月より、「ひたちなか市バレーボール教室」が始まり、クリニックを開催しています。

地域移行をすると、休日はどんな過ごし方になるの？

休日をどのように過ごすかは、自分で選択できるようになります。学校部活動と同じ種目に限らず、自分の興味や関心のある様々な活動に参加できるようになります。

<活動の例>

Aさん サッカークラブ Bさん テニスクラブ
Cさん 音楽を奏しむ Dさん 吹奏楽クラブ
→自分で活動を選択できます！

Q&A

Q 休日の部活動はいつまでに地域に移行するの？
A 令和5年度から移行できるよう準備を進めています。体制が整ったところから、順に活動をスタートしていきます。

Q 平日の部活動はどうなるの？
A 当面、今までどおり継続します。

Q 部活動以外の種目もできるの？
A 生徒の皆さんが希望する活動ができるように整備を進めていきます。

Q 休日はゆっくり休みたいのだけれど、活動しないといけないの？
A 休日に休むか活動するかは自分で決めます。

Q 異なる中学校の生徒でも、同じ地域クラブで活動できるの？
A 中学校が違っていても一緒に活動できます。

Q 地域クラブは中体連の大会に参加できるの？
A 中体連に加盟している地域クラブであれば参加できます。

Q 学校で入っている保険は使えるの？
A 地域での活動になるため、別の保険に加入する必要があります。

ひたちなか市教育委員会
所在地：茨城県ひたちなか市東石川2丁目10番1号
電話番号：029-273-0111（内線7333）

【ひたちなか市部活動地域移行広報チラシ】

2.実証内容と成果④

参考資料（活動写真）



【保護者説明会】



【練習の様子】



【ポイント指導】



【バレーボール教室指導者】

2.実証内容と成果

ひたちなか市バレーボール教室の実施に至るまでの合意形成プロセス

令和5年2月

美乃浜学園体育館でのバレーボール部合同部活動開始

令和6年5月～

校長会での説明、部活動顧問への説明、運営団体等との打ち合わせ

令和6年8～9月

生徒への体験教室開催、保護者への説明会

令和6年10月

バレーボール教室の開始

令和7年4月以降

バレーボール教室の継続

ステークホルダー

学校、茨城大学バレーボール部、NPO法人sakura
市長部局、市教委

経過

令和5年度より美乃浜学園体育館を活用したバレーボール部による合同部活動を開始した。内容は、茨城大学バレーボール部大学生を指導者として、クリニックの形で実施してきた。令和6年度より、本市の部活動地域移行実証事業として茨城大学とNPO団体に指導と運営を依頼し、事業開始までの打ち合わせを重ねた。同時に市内校長会との部活動地域移行の方針及び、スケジュール、実証事業についての情報交換を重ねた。また、バレーボール部顧問への説明及び聞き取りを行った。

本教室を開催する前に、市内バレーボール部員対象生徒への体験教室を2ヶ月間開催し、参加するかどうか選択できるようにした。また、保護者を対象にした、部活動地域移行と本事業について説明会を行い、本教室がスムーズに運営できるように努めた。

実施内容

実施に当たり、参加生徒の学年や経験、希望ポジション等を事前にリサーチし、練習内容を生徒のレベルやポジションごとに変えて行うなど、工夫して実施した。また、参加人数が多いときは複数会場で実施するなど、人数に応じた運営をした。

実施にあたって生じた課題

本教室への移動は、保護者送迎及び公共交通機関としているが、本市は広域のため、保護者送迎が負担であるとの声がアンケートより寄せられた。また、運営スタッフは少数のため、本教室への参加生徒が115人に増えたことで、入金確認や登録等の業務量が増えた。

今後の展開

令和7年4月から9月まで本事業は引き続き行うが、10月からは、団体の自走事業とする。参加者の会費負担額が増えるため、参加者が減る可能性もある。その場合の持続可能な組織づくりも今後の課題となる。

3.今後の方向性

学校部活動の地域移行に向けたスケジュール

年月	R6				R7													
		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月		
関係団体	・スポーツ協会総会(6/5) ・市スポーツ協会副会長への説明(7/25,31) ・市少年団本部長への説明(7/29) ・指導者講習会での説明(8/3) ・市文化協会会長への説明(8/8) ・少年団団長への説明(10/11)	各団体（スポーツ・文化芸術）へのヒアリング			各団体（スポーツ・文化芸術）へのヒアリング													
地域クラブ活動 （実証事業）	・バレーボール教室事業委託 （実証事業）	バレーボール教室（10月～）			・実証事業	運営体制の整備（※準備ができた種目から地域クラブ活動へ移行）												
		軟式野球・吹奏楽（12月～）																
広報		市HP、市公式LINE、市報、各校HP に発信・更新			市HP、市公式LINE、市報、各校HPに発信・更新													
				・チラシ配付 ・動画配信 （予定）														
学校 生徒 保護者	・バレーボール教室説明 校長会(7/16)、 顧問(7/31)、 保護者(8/4、8/24) ・楽器の保有数調査(7月～) ・吹奏楽顧問との情報交換会(8/22)				各校及び専門部との情報交換													
				・楽器・楽器希望 調査（教員）	・楽器・楽器希望 調査（教員）											学校部活動地域移行説明会 （各中学校）	休日の地域 クラブ活動 試行期間	
				・地域クラブ活動 意向調査 （生徒・保護者）	・地域クラブ活動 意向調査 （生徒・保護者）													